

慶應義塾大学大学院寄附講座「医薬経済学教育研究プログラム」4月に開講

トピックス

昨年12月の理事会で承認され、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科に、製薬協寄附講座「医薬経済学教育研究プログラム」を開設する運びとなり、4月11日に第1回目の授業が行われました。寄付に協力いただく理事会社を対象に講座履修生の募集案内を行ったところ、多数の応募があり16名が履修することになりました。授業は慶應丸の内シティキャンパスで開講されましたが、大学院の学生と併せて30名を超え、教室がいっぱいになる盛況な講座となりました。

欧米の先進各国では、医療費の適正化と効率化が重要な政治課題となる中で、そのための手法として、HTA (Health Technology Assessment) の適用と組織の設置、医療経済学やその一部としての医薬経済学の導入が進んでいます。我が国においても、厚生科学研究の一環として、医薬経済学手法の開発とガイドラインの検討が行われるといった流れが始まっています。

製薬協としては、イノベーションの価値に見合った薬価制度の実現を目指して「革新的創薬のための官民対話」などでも提言を行っているところですが、今後、医薬品の価値を評価するに当たって医薬経済学の理論と手法がますます重要な役割を担うことになると考え、本講座を積極的に支援することになりました。

講座の概要

・ 講座担当：鎌江 伊三夫 教授、稲垣 中 准教授

- ・ 大学院研究科の正規科目（単位を認定）として設置
- ・ 春学期：「医薬経済分析論」（理論と応用、疫学、生物統計など）
- ・ 秋学期：「医薬経済学」（基本的な概論・取り巻く諸制度など）
- ・ 毎週水曜日の6時限目（18時10分～19時40分）の授業

連絡会の設置

- ・ 講座の運営に関して、大学院研究科と製薬協で連絡会を設置することになり、第1回連絡会が3月27日に開催されました。
- ・ 大学院研究科メンバー：大西・池上・高木・山内・鎌江 教授、稲垣 准教授
製薬協メンバー：企画政策会議委員代表、政策研所長、山辺専務理事ほか

（事務局長 是枝義維）



第1回授業風景